

トビタテ！留学 JAPAN  
日本代表プログラム  
第 12 期派遣留学生の報告

 愛知県立芸術大学

## 佐藤花菜さん

美術学部 美術科 日本画専攻

留学先:ロンドン・パリ

留学期間:2021年11月~2022年9月



### 留学計画の概要

ヨーロッパの美術教育を学ぶため、まず、ロンドンのコミュニティ団体でアートワークショップのアシスタントスタッフとして活動をし、その後、パリを拠点に周辺国のミュージアムエデュケーションの調査・研究を行いました。

### トビタテ派遣留学生として採用されるために努力した点

努力と言えるかわかりませんが、気を付けたこととしては自信をもって面接に望むことです。面接官の方はその学生が留学先で本当に計画を実行できるのか、を見ています。最低でも下記の三つは明確にして、深掘りされても答えられるようにしておくことが大切だと思います。

- ・留学先で学びたいこと・実践したい活動は何なのか。
- ・その活動を自分がやりたいと思った体験や動機。
- ・留学先で学ぶことをどのような形で発信し、将来何に役立てるか。

ネット上にトビタテの採用試験のためにどのようなことに気を付けたのか、体験記をまとめている先輩がたくさんいるので参考にするのもおすすめです。

### 留学中に努力した点

なによりもコミュニケーションをとることを一番大切にしていました。

留学先でこれまでと違う新しい人間関係を築いていくうえで、自分がどんな人間なのかを知ってもらい、相手がどんなことを考えているのかを話してもらうために周りの人と積極的に関わっていくことを心がけていました。

## 実践活動の受入機関について

実践活動の受入機関について、エージェントは利用せず自分で探しました。

ロンドンでアートワークショップや美術鑑賞のイベントを実施している団体をインターネット上で探し、ホームページでボランティア・インターンの募集をしていればメールを送りコンタクトを取りました。

20カ所以上の団体にメールを送り、返信が帰ってきた場所とのメールのやりとりを始め、現地到着後の面接を経て、受入機関が正式決定しました。

私が留学に行った頃はコロナで、留学先の国・受入機関が採用試験時に提出した留学計画と変更になる人が半分以上いました。留学の軸がしっかり通っていれば変更もさせてもらえるので、初めに決めた受入機関に絶対に行かなくてはならない、というわけではないと思います。

## 実践活動の内容について

私はロンドンのコミュニティ団体で6歳から12歳の子供向けアートワークショップのアシスタントボランティア&インターンとして週3回、約半年間活動していました。

このコミュニティ団体ではSTEAM教育を取り入れており、純粋な美術の作品制作を超え、異なる分野との融合によりさらに学びを深めるためのワークショップを企画していました。(ワークショップの例) "イスラミックアートを学ぶ" "影人形&お話づくり" "火山の噴火を学ぶ"…etc.

ワークショップにはそれぞれテーマや目標があり、それを達成する"手段"としてのアート活動をしていました。そのため、作品の良し悪しや技術的な評価などは気にすることなく、ただ自分の思いを表現する方法として子供たちがアートを楽しむ様子を観察することができました。

活動の終盤では担当の方からの協力を得て日本画の技術を取り入れたワークショップを開催しました。



## 反省点

留學生活全体を通して、新しいことを始めるのにスタートが遅れてしまうことが多かったのが反省点です。

アートワークショップの実践活動も、最終的に企画・実施したワークショップが終わった後に、もっと早くやればよかった、もう一度くらい実施したかった、という思いが残りました。

語学力や自分に自信がなかったことが原因であると思うので、留学前の準備・勉強が不足していたことも反省点です。

## 経験をどう生かすか

留学前から岐阜の美術館でミュージアムエデュケーターとして、美術館の教育普及をサポートするボランティアとして活動していました。

留学後は教育実習や卒業制作であまり活動ができていないのですが、留学先で学んだ美術教育の在り方・アプローチの仕方を日本の美術館で実践していきたいと考えています。

